

高等学校課題研究ハンドブック Chapter 3

テーマを絞り込み、リサーチのアウトラインを考える

3-1. テーマを絞り込む

『基礎演習ハンドブック』に準拠しながら、レポートの作成法についてさらに進めていきましょう（関西学院大学総合政策学部、2012）。

課題研究等で多くの生徒さんが陥りがちな“罨”は、テーマをなかなか絞りきれないことかもしれません。そこで、参考例として、ある高校生の方が SNS を通じて大学の先生にテーマについて相談した実際のやりとりを再録してみましょう。なによりも、一つのテーマについてどんな視点からリサーチするか、先生方からのコメントに注目して下さい（なお、原文を一部修正・編集してあります）。

私は夏のオーストラリア・キャンベラでのフィールドワークで、「**遺伝子組み換え作物**」に興味を持ちました。

現在、世界では不適切な灌漑農耕等で作物が育たなくなり、その結果、**貧困・飢餓**が生じています。そこで私は遺伝子組み換え作物を用いて、**貧困・飢餓を改善**できないかと考えました。また、全ての灌漑農地ではなく、灌漑農業により発生した「**塩害**」に絞りたいと思っています。それで、「遺伝子組み換え作物(耐塩性作物)で塩害地域での貧困を解決できるのか」というのが、今、私が考えている漠然としたテーマです。

ところが、多くの本やサイト等で、遺伝子組み換え作物は否定されているのが現状です（今日の農業の経済システムによって貧富の差が拡大する、企業の利益にしかならない、等が主に挙げられています）。レポートを書くにあたって、私は**農業の経済システム**から始めると、肝心の「塩害地域での遺伝子組み換え作物の活躍の可能性」について書けないのでは？ と思い始めました。しかし、遺伝子組み換え作物を貧困地域に浸透させるためにはとても重要なパーツでもあり、レポートの内容や構成にとっても苦戦しています。

どのようにリサーチして、どんな内容・構成をとれば良いか、アドバイスを頂けたらなと思っています。

すると、国際公務員出身の先生が、以下のコメントを返されました。

もう少し因果関係を整理して下さい。例えば、

1. **貧困飢餓の原因**は？ 途上国を対象にしていますか？ それとも産業国の国内生産性ですか？
2. 貧困地域の自助努力と貧困緩和に関する技術移転との関連は？ ハイテクの遺伝子組み換えは、Policy の一部ですが、**産業国**の国内政策には効果があるとしても、途上国との関係ではどうなるのか？ **途上国**がそれに過度に依存し過ぎたらどうなるのでしょうか？
3. 農業の生産性向上に関して、遺伝子組み換えは One of Them です。**その他の Option**は？
4. UN/FAO 関連の WEB をもう一度、熟読して下さい。特に MDGs・SDGs の取り組みは大事です。食料運搬過程で **20%以上のロス**があることを知っていますか？

テーマを整理する！ 実は、専門分野の学会等でも、若手からの発表に「そのテーマは範囲が広過ぎ！ 絞る必要がある」、「絞れば、問題点が整理され、自分の関心がはっきり

リサーチのアウトラインを考える

する」、「もう少し別の視点もあるよ！」等のアドバイスをよく耳にします。これらのコメントを考慮しながら遺伝子組み換え作物を扱えば、リサーチの**深みが増します**。

次は、この同じ投稿に対して別の先生がコメントした例です。

塩害農地への遺伝子組み換え作物での対処というテーマは興味深いものです。ただし、現在の**日本では遺伝子組み換え作物に否定的な見方が強い**ことはお書きの通りです。(略)

その上、遺伝子組み換え農作物をめぐるのは、①作物の**管理**（自生や交雑による遺伝子汚染や生物多様性等に対する影響等）、②**安全性**の問題（食品自体の安全性と、特定の害虫を殺す事等による影響等）、③企業が遺伝子組み換え技術等で作物を**独占**して、農家や食料生産を支配する可能性等、とても複雑な議論があります。これらの複雑な問題のどこに重点をおくか？そこをまず決めるのがポイントです。

農水省のHP等をお調べになっっていますか？ **国レベルの議論**を知ることがまず大事です。(略) その上で、レポートをどんな形で構想するか？可能性として、(1)～(4)をあげますが、御参考になれば幸いです。

(1) 人が直接口にする**食品作物以外で導入**

- ①塩害農地の再利用に、耐塩性ユーカリ等による**バイオマスエネルギー**、**紙パルプ**利用等を考える。
- ②ワタ等の**工業原料**等の作物を考える。
- ③飼料用のトウモロコシ等、家畜動物の**飼料**として利用する作物を考える。

(2) **塩害対策**として、土壌から塩を吸収するような植物を遺伝子組み換えで開発する。

- ①その植物で**除塩**する（作物としては利用しない）。
- ②除塩後に、その土地で再び塩害が起こらないような新しい農業技術（点滴灌漑等）を導入する。

(3) むしろ正面から、**遺伝子組み換え技術利用を全面に打ち出す**。

- ①安全性が証明されたならば、**どんどん耐塩性の新品種**を導入することを奨める。
- ②その場合、企業による農業支配が広がらないような政策的対策を考えた方がよい。

(4) 遺伝子組み換え技術ではなく、**従来型の品種改良**による耐塩性農作物の品種改良、あるいは海浜部等での植物を調べて、作物として利用可能な品種を探る（これが従来型の育種技術ですが）。

こうして自分自身が最終的に何を知りたい／訴えたいのか、テーマがはっきりしたら、あらためてタイトルを考えます。必要ならサブタイトルも加えて「アフリカの飢餓を救う～遺伝子組み換え作物による塩害農地の地力回復～」等とします。なお、タイトルはそれだけで内容がイメージできるように工夫して下さい。一方で、たんに物珍しいだけで、他人に何も伝わらないタイトルは避けて下さい。

3-2. リサーチのアウトラインを考える

テーマが決まれば、リサーチの**アウトライン**を想定します。このアウトラインはそのままレポートの構成ともなります。

次のページの例は、もう一人の高校生の方へ、アウトラインをアドバイスしたものです。

現在、私が興味を持っているのは、日本（特に JICA）が行っているケニアへの**ボトムアップの支援**です。

今考えている論文の構成は、

- 1.ケニアの**現状**
- 2.ケニアで今何が起きているのか？（とくに**貧困面**について）
- 3.**なぜ**そのような現状なのか？
- 4.日本がしている支援（**ボトムアップ**）は？
- 5.その支援は**役立っているのか？**（役立っているとは、現地の人々がちゃんと支援物資の使い方を知っていて、有効にその支援物資等を使っているかという意味）
- 6.現地がしていることは？ **有機農法等**←ボトムアップ（他国からの支援以外に現地の人たちがどのようなことをしているかという意味）
- 7.有機農法はどのような役割なのか？
- 8.有機農法をするのはどのようないい点があるのか？
- 9.解決策

私はこの構成をフィールドトリップ先で聞いたお話をベースとして構成しました。ここで、私が皆さんに教えていただきたい内容は、

- 1.この構成について、どのようにしたらもっと内容も含め絞り込んでいけるのか、またこれで良いのか？
- 2.論文を作成する上で、自分のボトムアップの定義を示した方がよいのか？ またどのような事を定義すればよいのか？
- 3.学校の図書館で本等を調べているのですが、なにか先生がお知りになられていることや、これに対しての先生方の意見やアドバイス、また参考になるような文献を教えていただきたいです。

この投稿に対して、ある先生がおこなったコメントは次の通りです。

私も JICA の派遣専門家を 2 年勤めましたが、アフリカの現地の問題は複雑です。それを扱うには、ご自分の考え方をまず整理することが必要です。そのためにリサーチ・レポートの構成を考えましょう。（略）

いただいた内容を（序・内容・考察という）リサーチ・レポートの枠組みに当てはめると、以下のようなになるかもしれません（下線部があなたの構成に含まれていたパーツです）。

I. **序**：テーマとその重要性の説明

- I-1. 主なテーマ：日本（特に JICA）が実施しているケニアへのボトムアップ支援であることを説明
- I-2. 「ボトムアップ支援とは何か？」を説明
- I-3. そして「自分はどんな視点から、ボトムアップ支援をリサーチのテーマに選んだのか？」を説明

II. リサーチの**対象の紹介**

- II-1. ケニアの紹介（ケニアの現状を説明）
- II-2. フィールドトリップ先での体験や、有機農法に関係するボトムアップ支援を説明

Ⅲ. リサーチの結果

Ⅲ-1. ケニアの全般的な状態を説明

- ケニアで今何が起きているのか（貧困面について）
- なぜそのような現状なのか

Ⅲ-2. 現地での有機農法の現状

- 現地の人たちがどのようなことをしているか？ 有機農法等について説明
- 現地の人々がちゃんと支援物資の使い方を知って、有効にその支援物資等を使っているか？

Ⅲ-3. ボトムアップ支援を紹介

- 日本がおこなっているボトムアップ支援
- その支援は役立っているのか？

Ⅳ. 議論

Ⅳ-1. アフリカで有機農法がこれから果たすべき役割、将来性

- 有機農法を実施すると、どんな良い点があるのか？
- 有機農法は今後アフリカの発展にどんな役割を果たすのか？

Ⅳ-2. 私自身の提案

- 解決策

なお、現在、マダガスカルでは伝統的農法から発展させた **SRI 農法**と、日本の伝統農法を活かした **PAPRIz 農法**等が展開しているそうです。詳しいことは以下の web をお読み下さい。

• http://www.madacom.org/conference/summary/conf19_02.html

• http://www.madacom.org/conference/summary/conf19_03.html

このコメントの骨子は、“序”をつけ加えて問題設定を整理した上で、“対象”、“結果”、“考察”を仕分けしたことです。とくに、“序”では「テーマを絞る＝明確化する」ことが重要です。それはレポートの読者に対しては「これがテーマです」というアピールですが、同時に、筆者＝自分自身にとっては「これが絞り込んだ本当のテーマなのだ」と自覚することです。こうしておのずとアウトラインができあがります。

このように皆さんも、一度原稿を書いたら、それを全体的に見直して、どこが自分が選んだテーマについて説明する“序”なのか、どこが自分が調べた客観的な事実の記述＝“結果”なのか、そして、どこがその結果から自分が主張したいこと、あるいは提案したいことを展開する“考察”なのか。最後に、序→結果→考察という流れが、一貫したストーリー（筋道）でまとまっているか、見直して下さい。

3-3. 引用文献

関西学院大学総合政策学部編『基礎演習ハンドブック改訂新版 さあ、大学の学びをはじめよう！』関西学院大学出版会、2012。

2018年3月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部